



県高校総体体育大会は27日、各地で9競技を行い、ハンドボールの男子決勝は浦添商が37―33で20連覇中の興南を破って初優勝した。女子は浦添がコザを24―21で制し、2年連続12度目の栄冠をつかんだ。

バスケットボールの男子は沖縄水産が興南を74―63で制

して57年ぶり5度目、女子は石川が小塚を100―63で退け、2年連続2度目の頂点に輝いた。

バレーボールの男子決勝リーグは、美里工業が3戦全勝で4年ぶり14度目の栄冠。女子決勝リーグは知念が3勝を挙げ、22年ぶり3度目の頂点に立った。

ソフトボール女子決勝はコザが読谷を4―0で破り、2年ぶり10度目の頂点をつかんだ。

ボウリング個人の男子は小

山嵐士(具志川)が優勝し、女子は稲福観夕(中部商)が連覇を果たした。小山と稲福は団体と合わせて2冠を獲得した。

28日は3競技が行われる。

ハンドボール

(豊見城市民体育館)

【男子】

▽決勝

浦添商 37(10-23)33 興南

【女子】

▽決勝

浦添 24(12-11)21 コザ

浦添商初V 興南破る 速攻で得点 流れつかむ

ハイライト

試合が終わり整列した2チームが、共に泣いていた。男子決勝は、創部6年目の浦添商が20連覇中の興南を37―33で破って初優勝。主将の新里秀斗は「興南には負けが続いて苦しかったけれど、この一

瞬で報われた」と喜んだ。新垣英之監督は、那覇西で指導していた10年以上前から興南の壁に阻まれ続けた。浦添商に赴任後、当時なかった部を創設。息子の瑛太郎が全中優勝メンバーが集まり、この1年間は県外や台湾遠征で腕を磨き、そして決勝を迎えた。

新垣瑛が「試合の入りには自信

がある」と話す通り、連攻から得点して流れをつかんだ。高い技術を持つ強豪に「引いて守ったら負け」と、積極的に前へ出てかく乱した。17―13で折り返したが後半11分、個人技で押し込まれて24―22と迫られた。ここで新垣瑛が「このままでは負ける」と1分間のタイムアウトを父に持ちかけ、チー

ムを落ち着かせた。再開後、ゴール前でパスをもらった新里がシュートを決めて3点差に広げ、勝利を呼び込んだ。

強豪を破り、全国総体で注目される立場となった。新里は「沖縄の高校生みんなの気持ちも背負って、優勝を目指したい」と闘志を燃やした。

(又吉健次)

創部6年目 21連覇阻む

男子決勝 浦添商 興南 優勝が決まった瞬間、駆け寄って喜ぶ浦添商の選手たち。豊見城市民体育館(金沢拓実撮影)



浦添連覇 手堅い攻撃

女子浦添は後半の勝負どころを逃さず、コザを24―21で破って連覇を成し遂げた。持ち味の速攻を封じられた。守備を終えて走り出すと、相手もついてきて阻まれた。ロースコアの展開に持ち込まれ、12―11で折り返した。それでも「焦ることはなかった」と、前盛静香が勝負どころで躍動。18―17の場面、ゴール前で相手選手の間に割り込んでシュートを放ち、2点差にした。終盤には左サイドから得点して3点差。「うれしかったけれど、すぐ守備に戻った」と笑顔で振り返った。

決勝でチーム最多8得点だった主将の大城詩は「けがで決勝に出られなかった棚原華倫と、また一緒にプレーできる」と全国総体出場を喜んだ。當間陽乃香は「3月の全国選抜で敗れた高松商(香川)にリベンジする」と誓った。

(又吉健次)

女子決勝 浦添―コザ 前半、浦添の大城詩が9点目のシュートを決める



卓球

エナジック頂点 女子はコザ制す

(県立武道館)

ゴルフ

金城と吉崎 個人制す

(PGMゴルフリゾート沖縄)

悔しい興南 序盤にミス

負けて立ち上がりえず、ユニホームで涙をぬぐった。県総体20連覇中の興南が33―37で敗れた。主将の高岡寛大は「悔しい。歴史を築いてきた先輩方に申し訳ない」と言葉を詰まらせた。

序盤にミスが出た。攻撃でのパス失敗や、キャッチできなかったボールを拾われて速攻を食らい、失点した。U19

日本代表の赤嶺尚太郎の10得点で食い下がったが、追いつけなかった。高岡は「沖縄では圧倒して勝ち全国で戦うチームになってほしい」と後輩の活躍を願った。

(又吉健次)

後半、相手攻撃を阻もうとディフェンスする興南の松堂航也(中央)ら

